

学校臨床力高度化系
小論文

【出題の意図】

①

「省察」という言葉をどのように理解しているか。児童・生徒「理解」を行った上で今後の「方針」を立てるには、現状に至るまでの状況・背景・文脈を、自身のかかわり方も含めて把握することが必要である。その必要性を、「現場では時間的にそうした余裕がないが、省察は重要である」といった形式的な解答を超えて、論理的に考えられているかを問う出題である。

②

当該の児童生徒を対象にする、あるいは教師自身を対象にする、といったどちらか一方のみを省察の対象とするのではなく、児童・生徒についてと共に、かかわっている教師自身も省察の対象として論じられているかどうか。つまり、子どもと教師との関係性、子どもと家族や級友などその他の関係性にまで視野を拡げて考えられているかを、論理的に考えられているかを問う出題である。

③

学校組織の中で様々な会議がなされるが、生徒指導・教育相談・特別支援教育などの会議の中では、「事例検討会」や「ケース会議」といった課題がある個別の子どもについての検討が行われる場合がある。そうした会議において、「省察」に関連する内容はどのように意識されているのか、あるいはこれから考えようとしているのかを問う出題である。

④

一般的に自らの経験の積み重ねを糧に、個々の教師はキャリア形成を行ってきたと思われる。今回「省察」という言葉をキーワードにして、現職経験を持つ受験生が、自身の実践とふり返りをどのようにしながら歩んできたのかを、一般論ではなくてこの場で「省察」し、さらに展望へとつなげられているかを問う出題である。